

# ミエン・ヤオ族の浄化儀礼に関する研究

## —道教・法教儀礼との比較から—

A Study on the Purification Ritual of the Mien Yao People: From a Comparison with the Taoist and Fa (法) tradition Ritual

神奈川大学経営学部教授

廣田律子 HIROTA, Ritsuko

### はじめに

本稿では儀礼での水の役割についてミエン・ヤオ族の儀礼を取り上げ明らかにしようとする。

ヤオ（ザオ）族と民族分類されている人々は、文化的には多様な民族集団から構成されている。ヤオ語系のミエン語を話すミエン・ヤオとヤオ語系のキン・ムン語を話すランテン・ヤオが代表として挙げられる。

大半は中国南部地域からベトナム北部・ラオス北部・タイ北部など東南アジア大陸部に居住し、一部は1970年代のインドシナ難民としてアメリカなどにも移住分布する<sup>1)</sup>。

移動を繰り返し広範囲に分布することになった主な原因はミエン・ヤオが山を利用し農耕を営む、焼畑耕作を生活の糧としていたことが挙げられる。焼畑耕作とは、森林を伐採し、焼くことによって耕地を得、その灰を肥料とし、一定期間作物を栽培し、地力が衰えると放棄し、別の場所に移動した開墾することを繰り返す農法である。この焼畑耕作を続けるライフスタイルが移動を引き起こすことに繋がってきた。移動は家族を単位として行われ、タイのグループが所持している先祖代々の墓の位置を記した祖図からも移動経路が分かるとされる。

山を移動して利用するミエン・ヤオの生活は、1950年代以降各国の同化政策により定住化が進められたことに加え、森林保護政策により焼畑が禁止されたことで大きく変化した。定住化するようになったミエン・ヤオは棚田による水稻耕作や植林による林業を営んできた。近年では社会の変化により、現金収入を得るため、多くの地域で山から大都市にさらに別の国にまで出稼ぎに出る者の増加が顕著である<sup>2)</sup>。

### 神話に見える移動と祭祀

ミエン・ヤオの間には、長年にわたる移動を示す内容の共通する渡海神話（飄遙過海神話）の伝承がある。この伝承は、漢字を用いて記述され、テキストが大切に伝えられている。この渡海神話では、かつてミエン・ヤオが海を渡り移動しようと試み遭難した際、ビエンフン（盤王・盤皇）を代表とする三廟聖王に救いを求め願を掛けたが、結果無事に上陸できたので、約束を果たす祭祀を行うようになったとされる<sup>3)</sup>。神々とミエン・ヤオとの契約関係は現在に至っても引き継がれ、救世主ビエンフンに象徴される祖先神は、子孫の祈願の対象であり続け、大願成就の願ほどきの祭祀が続けられてきたのである。

大願成就の祭りは、広い意味での祖先への祭祀

である。この祭りにおいてこの渡海神話は歌唱される。ほかにも神話叙事及び歴史叙事である『大歌書』（いわゆる『盤王大歌』）が詠唱される。そうすることでミエン・ヤオ自民族の起源や出自にかかわる伝承を再確認し、祖先をたたえ、綿々と継続されてきた祭祀契約とその履行の実践である祭祀の意義が伝えられる<sup>4)</sup>。

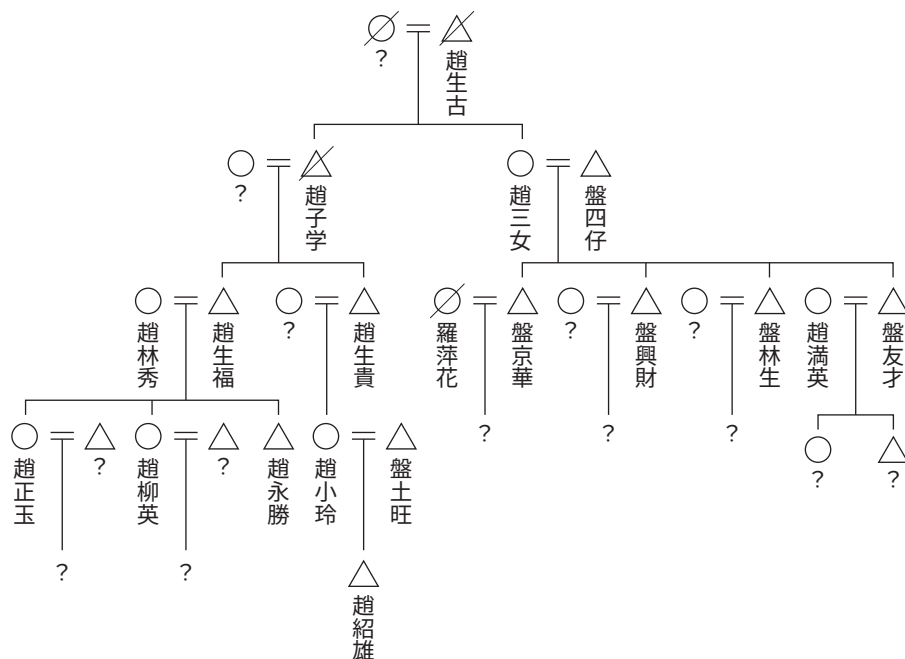
先祖への祭祀儀礼を続けるために、ミエン・ヤオの男性は、必ず祭司となる通過儀礼を経なければならぬとされる。この通過儀礼は灯明をともすことでそのレベルが表され掛灯（クワタン）と称されるが、最初の段階では、三灯明がともされ、次に五灯明、七灯明、最高は十二灯明がともされランクアップが図られる。姓や地域によって灯明の数は異なる。最初の段階の三灯明をともす通過儀礼では、祭司としての名である法名が与えられ、祭司としての法術が伝授され、祖先を祀る権利が付与され、同時に法名が祖先の名が連ねられ記述されている家先単に記され、死後祖先として祀られる権利を有することになる。この通過儀礼は中国を出て移動を繰り返した結果今ではタイ・ベト

ナムに分散して居住するに至ったミエン・ヤオの間にも継承されている。ミエン・ヤオにとって祭司となることつまり祖先祭祀を継続することがいかに重要な意味をもつかが現れている<sup>5)</sup>。

ミエン・ヤオの神の世界は、儒教・仏教・道教と単独の宗教の名を付して表現することはできないものの、父系出自や父系祖先祭祀を重視するイデオロギーや儀礼の内容に儒教と道教の影響が色濃く見られる。ミエン・ヤオが古来より時をかけて出会い自分の信仰の対象としてきた神々が重層的に習合して存在する。神々への祭祀儀礼は、その規模の大小にもよるがテキスト（経典）の読誦と口頭による唱えごと、発行される文書、マジカルなステップ（罡歩）、マジカルな手の表現（手訣）、符の作成、舞踏、筭（チャオ、2個1組の卜具、裏表で陰陰、陽陽、陰陽を判断）での占い、マジカルな文字（緯字）等を重要な構成要素として成立している。

本稿ではミエン・ヤオの儀礼の実践の中で水にかかわる儀礼項目を取り上げ、身体的な表現方法と使用される漢字テキストの経文分析を行う。さ

图 1 家系图



作图 广西民族大学民族学与社会学学院讲师 谭静氏

らにミエン・ヤオの儀礼と水の使用に影響を与えたと考えられている道教や法教の儀礼における水の使用について取り上げ比較を試みる。

## 1 ミエン・ヤオの儀礼における水の使用

### 1-1 還家願儀礼の概要

今回水の使用及び水の機能・作用について分析を行うにあたり事例とするのは、藍山県匯源郷湘藍村趙家で2017年1月12日～17日（旧12月15日～20日）に実施された還家願儀礼（祭司になるための三灯明をともし儀礼及び願ほどの儀礼）である。

今回儀礼を経て祭司となる受礼者は趙生福・趙生貴兄弟及び従兄弟の盤京華・盤友才兄弟、趙生福の息子趙永勝、趙生貴の娘婿盤土旺、そして趙生福と趙生貴の父で故人の趙子学である。（図1）

長男の趙生福は家を継ぎ、次男の趙生貴は分家することになり先祖の香炉を移す必要があるの

で、先祖を祀る資格を得るため掛灯（クワタン）を行った。

盤京華と盤友才は、趙子学の妹（趙三女）の息子で息子のうち2名が趙家を継ぐ約束をしており、趙家の先祖を祭祀する資格を得るため掛灯を行った。

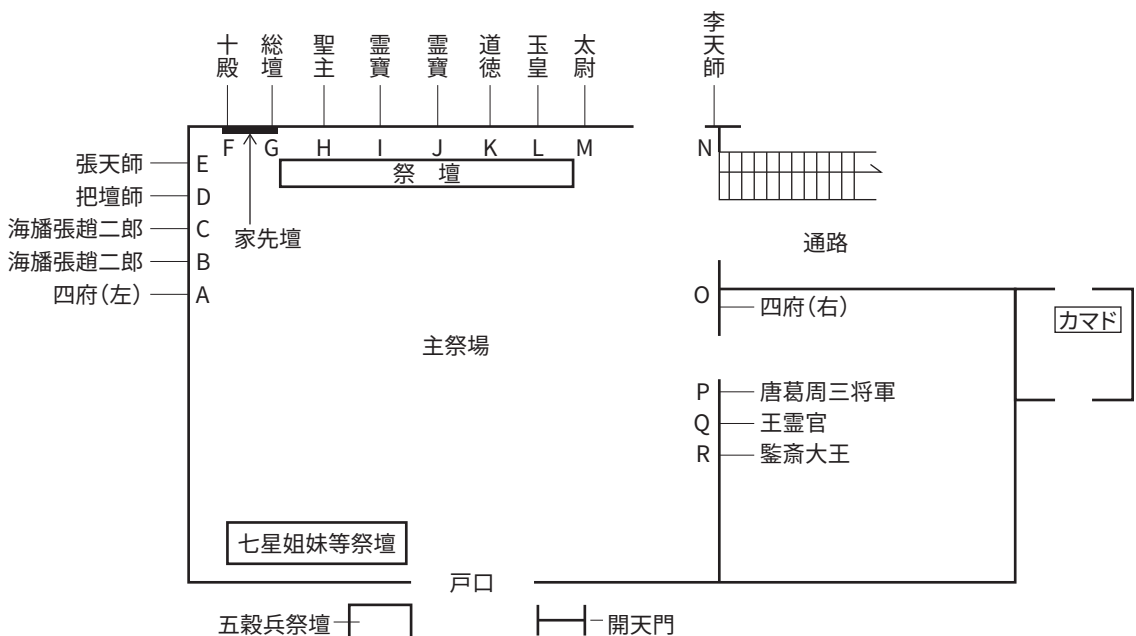
儀礼の目的は法名を得、趙家の祖先祭祀を行う祭司の資格を得、祀られる権利を得、歴代の祖先の法名を記す家先単に法名を列することができるようになることである。

儀礼執行者の祭司は3名で、趙金付（法名 法明）は程行師・掛灯師の役を務め、盤宝古（法名 法旗）は招兵師・還願師の役を務め、盤万古（法名 法旺）は賞兵師の役を務めた。

その他の参加者は祭司の弟子3名と、供物を準備し、儀礼の段取りを取り仕切る主厨官1名、そして助手として厨官2名、歌を担当する歌娘と歌女3名、囃子を担当する笛吹師、銅鑼師及び線香を供える香灯師である。

祭場は趙生福氏宅の庁堂にしつらえられ、入り

図2 祭場図



趙金付所有神画：B, G, M, P

盤宝古所有神画：A, C, D, E, F, H, I, J, K, L, M, N, O, Q, R

作図 広西民族大学民族学与社会学学院講師 譚静氏

口入って正面左側に趙生福氏の先祖を祀る常設の祭壇（家先壇）がある。祭儀の前半には、中央に祭壇<sup>6)</sup>がしつらえられ、壁には正面向かって元始天尊の代わりに靈宝天尊、その左右に靈宝天尊、道德天尊を配し、この三清を中央とし、向かって左に聖主・総壇・十殿・張天師・把壇師・海番張趙二郎2枚・四府、右に玉皇・太歳・李天師・四府・三將軍・王靈官・鑑斎大王の神像の描かれた軸（神画）17種22軸が掛けられた<sup>7)</sup>。（図2）

祭儀の進行に従って、先祖を祀る祭壇には紅紙の切り紙が掲げられたり、七星姐妹等精進を食す神々を祀る祭壇や開天門の儀礼を行うための祭場等が加えられた。祭儀の後半の盤王を祀る儀礼の祭壇は前半と一変し、神画は外され、正面に盤王を象徴する紅紙を切り抜いた紅羅緞が貼られ、丸ごと豚1頭が供物として並べられ、その上にまるもちが置かれ、切り紙の花旗が挿された。

儀礼を構成する主な項目を列挙すると1月12日は、落兵落将、昇香、1月13日、請聖、許催春願、洗淨發角、東听意者、安途落馬、掛三盞明灯、還催春願、上光、1月14日は、上光、招兵願、昇五谷、招五谷家兵、上光、上兵、還招兵願、上光、大運錢、1月15日は、還元盆願、上光、小運錢、盤王願、請王、点男点女、1月16日は、請王、流楽、唱盤王大歌、還盤王願、1月17日は、拝師、拆兵、装馬、散袱で儀礼は進行された。

## 1-2 還家願儀礼における水

還家願儀礼の儀礼項目の中で、水に関係する内容であるものを取り上げ、儀礼の実践において身体的表現方法やテキストの使用を中心に以下に説明する。

### 1-2-1 儀礼項目洗淨發角での水の使用

儀礼項目「洗淨發角」（1月13日1時半頃から）は、賞兵師を担当する盤万古祭司が担当し、儀礼の場の祓い清めが行われ祭壇の置かれる庁堂と供物が準備される厨房の穢れが聖水で清められる。祭司には正装した弟子が付き添う。祭司が正面祭壇前で水の入った碗（蓮花を表す）を老君訣という中指と薬指を折る手訣を結んだ左手の上に載せ、宝剣（楊柳を表す）を右手にもち、宝剣を上



洗淨 祭壇前



洗淨 祭壇前



洗淨 かまど前

げ下げし、口誦（後出経文）を続ける。このとき時計回りに回りながら行う。この後水を聖水に変える勅水を行う。まず、七星罡歩というマジカルなステップを行い、水碗の水を宝剣に付け舐める（呷水、本来水を吹く）、そして宝剣で水に囀（出口令）というマジカルな文字を描く。

祭司は筭（卜具）で占った後、再び水碗の水を宝剣に付け舐め、宝剣で水に出口令を描く。この間口誦を続け、足は七星罡歩の最後の動きを止めたままを進める。

祭司は再び筭で占った後、宝剣を碗の上に置き、七星罡歩を行い、右手に筭をもち水につけ呷水を行い、筭で水の上に出口令を描いた後、筭で占う。

陽陽の卦が出た後、祭司は筭を水につけ呷水し、上に出口令を描く。再び占う。次に宝剣に水を付け、撒くような動作を行う。この間口誦を続ける。占い、再び宝剣で水を撒く動作をし、口誦を続ける。身を回転させながら四方に撒いている動きを続ける。筭で占い陰陰の卦が出た後、再び宝剣に水を付け、撒く動きをし、占い陰陰の卦が出た後、



かまどに移動する。このとき洞中呪（後出 A-16b 經典經文 67 行～70 行）を節をつけて口誦する。

次にかまど前に移動し、祭司は水碗、宝剣をもち口誦し、かまどに紙銭をくべ、筭で占う。水碗の水を宝剣に付け上げ撒く動きをし、口誦を続け、また筭で占う。さらに水を宝剣に付け上げ撒く所作、筭での占いを繰り返す。このとき口誦を続ける。次に戸口外に移動し、口誦（後出 A-16b 經典經文 79 行～91 行）を続けつつ、水碗の水を宝剣に付け外に向かって数回撒く所作をする。次に室内に入り入り口扉を閉め、扉に宝剣でマジカルな文字を描く。この文字は魁か鬘（二十八宿）が描かれる。閉めた扉のところで筭で占う。正面祭壇方向に向き直おり、碗をもち、宝剣を水に付け上げ周囲に撒くような動作をし、節をつけ口誦（後出經文 92 行～）を続け、正面祭壇に向かって歩く。正面祭壇前で節をつけ口誦を続け時計回りに回りつつ水を撒く所作を続ける。碗と宝剣が祭壇に置かれる。節をつけた読誦が続けられ、牛角（角笛）が吹き鳴らされ、發角儀礼に移行する。弟子は儀礼の間中ドラを叩きつつ祭司に付き添い続ける。

#### 1-2-2 儀礼項目掛三盞明灯での水の使用

儀礼項目「掛三盞明灯」（1 月 13 日 16 時半頃）では、掛灯師を担当する趙金付祭司が家先壇前で家先壇から水碗を降ろし、宝剣をもつ。碗と宝剣をもって七星罡歩した後筭で占う。勅水（水を浄化させる行為及び唱えごと）し吩咐し、宝剣で水碗にマジカルな文字出口令を描く。口誦を続ける。水を封斎水に勅変（聖なるものに変化させる行い及び唱えごと）する。水碗の水（封斎水）を受礼者に飲ませ。筭で占う。これ以降受礼者は封斎の状態となり、肉食をつつしみ、女性とは言葉を交わさない等禁忌を守って過ごす。

その後招兵師を担当する盤宝古祭司が水碗をもち、宝剣を碗の上で上げ下げし、七星罡歩を行う。口誦をする。宝剣を碗の水の中で回す。さらに水碗をもち、宝剣を碗の上で上げ下げする。七星罡歩を行う。口誦を続ける。宝剣で水に出口令を描く。さらに水碗と宝剣をもち七星罡歩を行い、水に宝剣で出口令を描く。七星罡歩を行う。經典「伝灯用・勅変水碗」<sup>8)</sup>の頁を読誦する。水碗の水に



掛三盞明灯 封斎水を飲ませる



水碗をもち「伝灯用・勅変水碗」の頁読誦



受礼の道具を勅変する

宝剣を付け、上げ下げする。水碗をもち、宝剣で祭壇下の箱の中の米等を勅変する。筭で占う。宝剣で出口令を描くようにし、椅子を勅変する。このとき盤宝古祭司は經典を開いてもち「打機甲用」<sup>9)</sup>の頁を読誦する。盤宝古祭司は続けて椅子の上に置かれた衣の上に宝剣で出口令を描き勅変する。筭で占う。七星罡歩を行う。ひざまずき祭壇下の箱の中を宝剣で出口令を描き勅変する。筭で占う。口誦を続ける。筭で占う。椅子の上に置かれた衣の上に宝剣で出口令を描き勅変する。筭で

占う。受礼の道具を勅変し浄化する。

### 1-2-3 儀礼項目昇五谷での水の使用

儀礼項目「招兵願」に含まれる小儀礼項目で、戸外で実施される「昇五谷」(1月14日12時半頃)において家の五穀豊穡を願い、盤宝古祭司は左手に水碗右手に宝剣をもち、五穀の魂のついた五穀幡を勅変し、収瘟を行い、穀物を害す虫等の祓い清めを行う。さらに開天門の台のところで祭司は左手に水碗、右手に宝剣をもち、宝剣を碗の水に付けながら七星罡歩、しゃがんで筭で占う。その後戸口で粟の束等を竿秤に付けたものを家の中に向かって立つ受礼者に背負わせる。祭司は左手に水碗、右手に宝剣をもち、宝剣に碗の水を付け、受礼者の後ろから宝剣で出口令を描く。その後筭で占う。再度宝剣で勅し、手訣、筭で占いを行う。これは吉祥物に変化させ、浄化するためとされる。

### 1-2-4 儀礼項目唱盤王大歌での水の使用

儀礼項目「唱盤王大歌」(1月16日12時頃)において趙金付祭司は家先壇前で、左手に水碗、宝剣をもち、口誦をし、ひざまずき筭で占う。その後左手に碗、右手に宝剣をもち、宝剣を水に付



開斎水に勅変する



開斎水を飲ませる

け出口令を描き、水を開斎水に勅変する。筭で占う。祭司は受礼者を集め、碗の水(開斎水)を飲ませ、鶏を1羽ずつわたす。これで封斎から解き放たれることになり、精進や女性と言葉を交わしてはならない禁忌を守らなくてよくなる。

### 1-3 水にかかわる儀礼におけるパフォーマンスの意味

以上「洗淨發角」あるいは「浄壇」と称される儀礼の意味するところは、儀礼の最初の段階で儀礼の行われる場を聖なる浄水を撒くことで清める、浄化することに尽きると考えられる。このとき水を聖なる浄水に変化させるのに必要な言葉である呪文、手訣、罡歩といった呪術的な身体的表現方法が駆使されているといえる。

中国の儀礼で受礼者が飲まされる封斎水及び開斎水に関する所作から考えると、受礼にあたり聖水(封斎水)を飲み、受礼者自身浄化され、受礼者の魂が特別な儀礼空間に入ることができる特別な状態になると考えられる。受礼を終え、儀礼項目の「唱盤王大歌」において、祭祀によって『大



五穀幡を勅変する



粟束を背負った受礼者を後ろから浄化

歌書』が節をつけ読誦されるがテキストの三段満曲の部分にいたると、受礼者は聖水（開齋水）を飲まされるが、これで魂が通常の状態に戻ると考えられる。

これは最高位の祭司となる通過儀礼の度戒（トウサイ）儀礼（十二灯明をともし儀礼）においても封齋，開齋<sup>10)</sup>が行われ，受礼者が受礼をする特別な状態となる区切りとなる。度戒では受礼者に対して試練となる儀礼項目（度水槽，度勅床）<sup>11)</sup>がありこのとき受礼者は陰界に行ってまた戻る体験をするが，この世に戻るために水を吹き掛けられたりする。つまり水は魂が特別な状態に入るとき，また通常に戻るときに欠かせないと考えられている。

水の役割には，西岡弘等が論ずる<sup>12)</sup>，癒やしの水，蘇りの水としての役割を見いだすことは難しいが，「昇五谷」において，五穀豊穡の吉祥物の五穀幡を水に付けた宝剣で勅変したり浄化するが，この行為は，豊穡を促す力を与えたことになると考えられる。

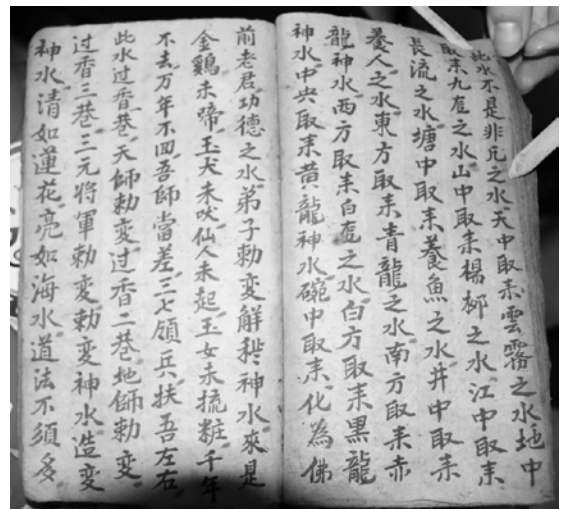
#### 1-4 儀礼実践で使用された中国テキスト文面

儀礼項目「洗浄發角」の洗浄部分で読誦あるいは口誦されるテキストの文面を検討のために以下に示す。

寧遠県九嶷山紫荊村盤萬古祭司所有のテキストで，ジャンルは請聖書に属し，タイトルは『請聖書乙本』，全132頁からなるテキスト（ヤオ族文化研究所文献番号 A-16b）の70頁から91頁部分である。このテキストは1929年に盤啓玉氏により抄写されている。儀礼項目「洗浄發角」で読誦された経文を以下に記し，訳す。※●は不明字，○は同音の異字と思われる個所に付した。以降同様。

1	洗浄(法)角 (70 頁)	洗浄發角靈歌
2	靈歌 父母大壇衆聖 上壇兵馬 下壇兵將 請神一便 請神二便	父母大壇衆聖，上壇兵馬，下壇兵將，請神1回，請神2回，ようようと車を回し降り降る。馬を右に並べ，童子を1名呼び酒浄發角させ，急ぎ
3	祿祿回車帰降 排馬 右辺 旦聽一名童子 酒浄(法)角 急浄	

4	香門 旦德一名童子 請出馬頭意者	香門を浄化させる。また1人の童子を呼び馬頭意者を出させる。
5	左手接起一碗老君功德水 右手接起一條楊柳枝	左手を上げ，老君功德水を持ち，右手に楊柳枝を持ち，罡歩を踏み，手訣を結び，弥羅呪を口誦する。
6	脚踏金罡 手接訣 口中常唸陀羅弥	
7	謹請 東方甲乙木 青帝青龍將軍	つつしんで請う。東方甲乙木，青帝青龍將軍，青衣を纏い，青馬に乗り，青雲山上に住まい，腰に双刀の宝剣を帯び，万兵が守り従う。青龍よ，我水中に水を運び，邪を除き解穢せよ。祭壇内を浄化せよ。急ぎ浄化せよ。付靈清浄。
8	身着青衣 騎吾青馬 住在青雲山上 腰帶双刀	
9	宝剣 万兵扶從 青龍運水入吾水中 除邪解穢	
10	来 洒香壇里内 急々洗靈清浄 付靈清浄	
11	謹請 南方丙丁火 赤帝赤龍將軍 身着赤衣	つつしんで請う。南方丙丁火赤帝赤龍將軍，赤衣を纏い，赤馬に乗り，赤雲山上に住まい，双刀宝剣を腰に帯び，万兵が守り従う。赤龍よ，我水中に水を運び，祭壇内を浄化せよ。急ぎ浄化せよ。付領清浄。
12	騎(吾)赤馬 住在赤雲山上 腰帶双刀宝剣 万兵扶	
13	從 赤龍 運水吾水中 洗香壇里内 急々洒	
14	靈清浄 付領清浄	



34 行目～45 行目



15	謹請 西方庚(辛)金 白帝白龍將軍 身着白衣	つつしんで請う。西方庚申金、白帝白龍將軍、白衣を纏い、白馬に乗り、白雲山上に住まい、双刀宝剣を腰に帯び、万兵が守り従う。白龍よ、我水の中に水を運び、邪を除き解穢せよ。祭壇内を浄化せよ、急ぎ浄化せよ。付靈清浄。
16	騎(吾)白馬 住在白雲山上 腰帶双刀宝剣万兵	
17	扶從 白龍 運水入吾水中 除邪解穢 来洗	
18	香壇里内外 急急洗領清浄 付靈清浄	
19	謹請 北方壬癸水 黒帝黒龍將軍 身着黒衣	つつしんで請う。北方壬癸水、黒馬に乘る、黒帝黒龍將軍、黒衣を纏い、黒馬に乗り、黒雲山上に住まい、双刀の宝剣を腰に帯び、万兵が守り従う。黒龍よ、我水の中に水を運び、邪を除き解穢せよ。祭壇内を浄化せよ、急ぎ浄化せよ。付靈清浄。
20	衣 騎(吾)黒馬 住在黒雲山上 腰帶双刀宝剣	
21	万兵扶從 黒龍 運水入吾水中 除邪解穢来	
22	洗香壇里内 急急洗領清浄 付靈清浄	
23	謹請 中央戊己土 黄帝黄龍將軍 身着黄衣	つつしんで請う。中央戊己土、黄帝黄龍將軍、黄衣を纏い、黄馬に乗り、黄雲山上に住まい、双刀の宝剣を腰に帯び、万兵が守り従う。黄龍よ、我水の中に水を運び、邪を除き解穢せよ。祭壇内を浄化せよ、急ぎ浄化せよ。
24	衣 騎(吾)黄馬 住在黄雲山上 腰帶双刀宝	
25	剣 万兵扶從 黄龍 運水入吾水中 除邪解	
26	穢来洒香壇里内 急急洒靈清浄	
27	付靈清浄	付靈清浄。
28	謹請 東／南方水源童子 西／北方水源童子 中央	つつしんで請う。東方南方水源童子、西方北方水源童子、中央五方五位水源童子、五色の衣を纏い、五色の馬に乗り、五雲山上に住まい、双刀の宝剣を腰に帯び、万兵が守り従う。五龍よ。我水の中に水を運び、邪を除き解穢せよ。祭壇を浄化せよ、急ぎ浄化せよ。付靈清浄。
29	五方五位水源童子 衣着五色之衣 騎	
30	(吾)五色之馬 住在五雲山上 腰帶双刀宝	
31	剣 万兵扶從 五龍 運水入吾水中 除邪	
32	解穢 来洗香壇里内 急急洒領清浄	
33	付靈清浄	

34	此水不是非凡之水 天中取来雲霧之水 地中	この水は非凡ならざる水にして、天中から取り来た雲霧の水、地中から取り来た九龍の水、山中から取り来た楊柳の水、江中から取り来た長流の水、塘中から取り来た養魚の水、井戸から取り来た人を養う水、東方から取り来た青龍の水、南方から取り来た赤龍の神水、中央から取り来た黄龍の神水、西方から取り来た白龍の水、北方から取り来た黒龍の神水、中央から取り来た黄龍の神水である。碗中に取り来たりて仏前の老君功德の水と化し、弟子が勅変し、解穢の神水とする。これは、金鶏が鳴かぬうちに、玉犬が鳴かぬうちに、仙人が目覚めぬうちに、玉女が化粧をせぬうちに、取り来た水で、千年万年かかっても手に入れられない。我師が37人の兵を派遣し、我が左右を固め、この水は香を1回焚くと天師が勅変し、香を2回焚くと地師が勅変し、香を3回焚くと、三元將軍が神水に勅変し、神水に変え、清らかなること蓮花のごとく海の水のごとく輝き、道法は多くなくとも、南辰貫北何?只1字を用いてこの世から魔を一掃し、速く変水させよ。速く。不陰卦。靈(二十八宿)吾太上老君を奉じる。律令のごとく急げ。
35	取来九龍之水 山中取来楊柳之水 江中取来	
36	長流之水 塘中取来養魚之水 井中取来	
37	養人之水 東方取来青龍之水 南方取来赤	
38	龍神水 西方取来白龍之水 (白)方取来黒龍	
39	神水 中央取来黄龍神水 碗中取来 化為仏	
40	前老君功德之水 弟子勅変解穢神水 来是	
41	金鶏未啼 玉犬未吠 仙人未起 玉女未梳粧 千年	
42	不去 万年不回 吾師當差三七領兵 扶吾左右	
43	此水過香一巷 天師勅變 過香二巷 地師勅變	
44	過香三巷 三元將軍勅變 勅變神水 造變	
45	神水 清如蓮花 亮如海水 道法不須多	
46	南辰貫北何 只用一字 掃退世令魔 速化速	
47	變速變速化 靈下陰卦	
48	吾奉太上老君急急如律令	
49	此剣不是非凡之剣 化為太上老君殺之剣 入爐	この剣は非凡な剣にあらず、太上老君が鬼を殺す剣と化し、



50	三便 ㊟ 打是生鉄 出炉三便 打了变成剣 一措	炉に3回入れ、生鉄を打ち、炉から3回出し、剣に打ったもので、一振りで天が崩れ、二振りで地が裂け、三振りで人は長寿、四振りで鬼が減じる。吾太上老君を奉じる。律令のごとく急げ。陰卦を用いる。
51	天崩 二措地列 三措 人長生 四措鬼成 ㊟ 吾奉	
52	太上老君急急如令勅令 下卦用陰卦	
53	㊟ 法水上天 五雷転 殿 法水洛地 百草長 生	出口令、法水は天に昇り五雷は殿を移り、法水は地に落ち百草を伸ばし、法水は祭場を明るくし、どの神がどの鬼に応ずるのか、水は洋々として一面に吉祥をもたらし、一つ撒けば天は崩れ、二つ撒けば地は裂け、三つ撒けば人は長生し、四つ撒けば悪は滅亡する。天師は来たらず、地師は来たらず、解穢童子、破穢將軍がまずやって来る。天師が行わなくとも、地師が行わなくとも、解穢童子、破穢將軍はまず行う。この水を撒くと、闇雲に撒くのではなく、人六甲鬼六甲猫や鶏や犬六甲？
54	法水堂堂 万里吉光 何神敢对 何鬼敢当	金銀財宝を吹き散らしたくはなく、祭場を祓い清めたい、学法壇廟の前に、穢れがあれば、九龍清水を撒き、千年の香炉万年の水で祭場を祓い清める。もし穢れがあれば、九龍清水で祭場を浄化し、碗、杯、酒、料理を供物とし、もし穢れがあれば、九龍の清水で浄化する。これは題目。
55	発水洋洋 万里吉祥 一洒天崩 二洒地列 三洒人	
56	長生 四洒鬼滅亡 天師未到 地師未到	
57	解穢童子 破穢將軍先到 天師未行	
58	地師未行 解穢童子 破穢將軍先行	
59	此水發發 不是洒何中 洒何様	
60	人六甲 鬼六甲 猫兒 鷄犬六甲 不敢吹散 金銀	
61	財錦 不敢吹散 要来 洒過香烟里内 学	
62	法壇院廟前 有穢 将 我九龍清水洒淨	
63	千年香炉 万年水碗 有穢 将我九龍清水洗 淨	
64	進壇 蓮花酒盞 谷花 米酒 小花小菜盤席	
65	相用 有穢 将我九龍 清水洒淨 此是題 ㊟	
66	照見堂内物建都要洗完 洒厨房	堂内のものを照らしてみる。すべて浄化さ
67	問 何物玄去 答 洞 中玄去 唵呪進	れた。台所の浄化をする。何を唱えるか？洞中呪の呪文を唱える。
68	洞鐘玄去 光郎大神 此方穢上 水穢邪精	洞鐘玄去、光郎大神、此方穢上、水穢邪精、靈宝司命、普護九天、今日入吾當壇請聖
69	靈宝司命 普護九天 今日入吾當壇請聖	不得留停 火急甲 急来靈
70	不得留停 火急甲 急 来靈	出口令、天師は来ず、地師は来ず、解穢童子、破穢將軍は先に来る。天師は行わず、地師は行わず、解穢童子、破穢將軍は先に行う。この水を撒くと、闇雲に撒くのではなく、祭場を浄化する。東方西方南方北方五方五龍司命灶君、五方すべて浄化せよ。浄化を終え、呪文を唱え、祭壇に功曹土地があり、神はすべて知り、天に通じ地に達し、出入と名を、成功の日を文書で上奏する。本日祭祀を行うにあたり解穢し、留めない。早急に命じる。急ぎ来臨せよ。門を出て外で呷水し、邪を収める。
71	㊟ 天師未到 地師未 到 解穢童子 破穢將 軍	
72	先到 天師未行 地師 未行 解穢童子 破穢 將軍	
73	先行 此水發發 不是 洒何中 不是洒何様	
74	要来洒過 深房里内 東／西方 南／北方 五方五龍司命灶	
75	君 此是題目 五方都 請到一身洒完 唵呪出	
76	壇前 功曹土地 神知 流靈 通天達地	
77	出入修名 有功之日 文書上請 今日	
78	入吾當壇解穢 不得留 停 火急甲 急来臨	
79	出門外呷水収邪	
80	邪師来到法下 三魂七 尽歸天 手中執訣	邪師は法壇の下に訪れ、三魂七魄は天に戻り、手中に訣を結ぼうと結ぶまいと、口誦しようとしまいと、もし、邪が私を破ろうとすれば、我師は罡歩しお前の頭を砕く。尽皆遊(?)門前に山も水も高く、邪神悪鬼が騒ぎ、黄龍が三江口を出、鯉魚が四江灘を出、我が兵は我が祭壇に入る。我が兵は我が祭壇に入ろうとしないのではなく、一壇を破り十
81	不成訣 口中念法不成 言 若有邪師破我吾	
82	師罡 斬断你頭尽皆遊 門前高山水也高	
83	邪神惡鬼闇曹曹 黄龍 出得三江口 鯉魚出得	
84	四江灘 是我郎兵 入 我郎壇 不是我郎兵 不	
85	敢入我郎壇 打破一壇 還我十壇 破我十壇 還	

86	我千千万万壇 惡人面赤 好人面白 前門	壇を戻す。十壇を破り我に千や万の壇を戻す。悪人は赤面、好人は白面、前門に刀を飾り、後門に剣を立てる。
87	㊥刀 後門立剣 差我二位先峯 間塞鬼門	我に2人の先峰に使い、鬼門をふさげ、官所は大きく、学堂は小さい。門を変化させる。左門は左麒麟を描き、右門は右麒麟を描く。左門は左獅子が描かれ、右門は右獅子が描かれる。さっさとしろ、吾は太上老君を奉じる。勅令のごとく急げ。
88	界大是官庁 小是学堂 化門 左門画為左麒麟	
89	麟 右門画為右麒麟 左門画為左獅子 右門	
90	画為右獅子 速化速变 速变速化	
91	吾奉太上老君急急如令 勅令	
92	天上双刀打落地 地下双刀飛上天	天上の双刀は地に落ち、地下の双刀は天に飛び上がる。麒麟獅子は2頭立つ、邪師は祭場に入ろうとせず、天上の双刀は地に落ち、地下の双刀は天に飛び上がる。麒麟獅子は2頭立つ、邪師は祭場に入ろうとしない。父母大壇衆聖、上壇兵馬、下壇兵将、穢れがあれば、五龍清水で光明をもたらす。福江盤王聖帝、五龍司命、灶君、宅堂土地、宗祖家先、真王真将、仙姑姐妹、扶
93	麒麟獅子兩頭立 邪師不敢入香壇	
94	天上双刀打落地 地下双刀飛上天	
95	麒麟獅子兩頭立 邪師不敢入壇前	
96	令哥父母大壇衆聖 上壇兵馬 下壇兵将 有穢着	
97	五龍清水洒光明 福江盤王聖帝 五龍司命	
98	灶君 宅堂土地 宗祖家先 真王真将 仙姑姐妹 扶	
99	童小将 部録衆兵 有穢着 五龍清水洒光明	
100	大廟零師出門 托帶行司宮将 唐葛三将海	
101	番張召二郎 総壇太尉 上聖兵馬 下壇兵将	
102	有穢着 五龍清水洒光明	
103	三戒弟子出門 托帶大堂兵馬 三清証盟	
104	高真大道 有穢着 五龍清水洒光明	

105	六名童子 馬頭謹請 陰陽師父 有穢着	六名童子、馬頭謹請、陰陽師父、穢れあれば、五龍の清水で光明をもたらす。連州唐王聖帝、行平十二遊師、伏靈五婆聖帝、福江盤王聖帝、厨司五旗聖衆、穢れあれば、五龍の清水で光明をもたらす。本方地主、本洞廟王、元宵大王、元宵弟子、孤寒二郎、土地公公、土地婆、百歳老人、穢れあれば、五龍の清水で光明をもたらす。香炉、水碗、穢れあれば、五龍の清水で光明をもたらす。灯油、紙、穢れあれば、五龍の清水で光明をもたらす。ドラ、もち、穢れあれば、五龍の清水で光明をもたらす。碗、杯、穢れあれば、五龍の清水で光明をもたらす。龍憐、財馬、穢れあれば、五龍の清水で光明をもたらす。金花、宝杓、穢れがあれば五龍の清水で光明をもたらす。酒、埠老、穢れあれば、五龍の清水で光明をもたらす。東／西に穢れあれば、東方西方を解穢する。南／北に穢れあれば、南方北方を解穢する。中央に穢れあれば、中央を解穢する。人生に穢れあれば、番羅長？
106	五龍清水洒光明 外里連州唐王聖帝	
107	行平十二遊師 伏靈五婆聖帝 福江盤王聖	
108	帝 厨司五旗聖衆 有穢着 五龍清水洒光明	
109	本方地主 本洞廟王 元宵大王 元宵弟子 孤寒二郎 土	
110	地公々 土㊤婆 ㊥歳老人 有穢着	
111	五龍清水洒光明	
112	香炉水碗有穢着 五龍清水洒光明	
113	灯油紙有穢着 五龍清水洒光明	
114	鑼銅鈔餅有穢着 五龍清水洒光明	
115	蓮花酒盞有穢着 五龍清水洒光明	
116	龍憐財馬有穢着 五龍清水洒光明	
117	金花宝杓有穢着 五龍清水洒光明	
118	谷花米酒／香壇埠老有穢着 五龍清水洒光明	
119	東／西方有穢解東方／西方 南／北方有穢解南方／北方	
120	中央有穢解中央 人生有穢番羅長	
121	鯉魚有穢各帰海 畜牲有穢各帰欄	
122	天中有穢帰天位 地中有穢入地藏	
123	五方五位都潔淨 五龍清水落香壇	
124	左手放下一碗功德水 右手放下一條楊柳枝	
125	脚踏金罡手執訣 口中常念陀羅弥	天中に穢れあれば、天に帰す。地中に穢れあれば、地に帰す。五方五位をすべて浄化し、五龍清水を祭壇にもたらす。

126	清浄了清浄了 烏鴉叫 叫白雲山	左手に一碗の功德水 をもち、右手に一本 の楊柳の枝をもち、 罡歩を踏み、手訣を 結び、口中に陀羅弥 を唱える。 浄化した、浄化した。 烏が白雲山に鳴く。
-----	--------------------	---

### 1-5 ミエン・ヤオの浄化儀礼と経文

テキストの文面を見ると、左手に老君功德水、右手に楊柳枝をもちマジカルなステップの罡歩を踏み、マジカルな手を組む手訣を結び、口誦を行うとある（付下線部5行）。

碗の中の水は老君功德水であり、この聖水は老君の功德の水と解釈されていると分かる。この老君功德水によって穢れが祓い清められるとされ太上老君の功德水こそ災いを祓い清める究極の聖水と考えられている。

さらに青龍、赤龍、白龍、黒龍、黄龍が運んできた水によって祓い清められると続くが、陰陽五行思想が反映され、木火土金水の五行、方角、十干、色と結び付き、木の東方の甲乙の青龍、火の南方の丙丁の赤龍、土の中央の戊己の黄龍、金の西方の庚辛の白龍、水の北方の壬癸の黒龍とされる（7行～27行）。

その後勅水での文句は、「是水不是非凡之水」（付下線部34行～48行）の文言から始まるが、この水は非凡な水ではないと直訳できるが、これは修辭的な強調表現と考えられ、ただの水ではない意味と解釈する。さらに続けて水の来歴が記され、東西南北中央の龍の水、また三元將軍の名が見えるほか、清水のパワーの表現等詳しく説明されている。

「五龍清水洒光明」（97行、99行、102行、104行、106行、108行、111行～118行）という表現がしばしば見え、龍の聖水によって祓い清められ、光明がもたらされると考えられている。穢れがあれば、五龍の清水で浄化し光明あるいは清浄を得るという内容だが、東西南北中の穢れのほかに祭場の用具を一つひとつ取り上げ、穢れがあれば五龍の清水で清めるとしさらにはそこに集まる神々の名を挙げ、穢れがあれば清めるとし、徹底

的な浄化が表現されている（96～123行）。

儀礼の実践の中で祭司がかまどの清めに向かう場面で曲節をともなって唱えられる「洞中呪」（67行～70行）だが、浄化に必ず唱えられる呪術的な文言が列挙されている。

経典には、宝剣で水に描くマジカルな文字が描かれており、出口令と称される呪や二十八宿と称される霽が見える。儀礼のパフォーマンスの実践が図化されてテキスト上に記載されていることで、しっかりとした伝承の基盤が作られているといえる。

さらに付け加えると、中国・タイ・ベトナムのミエン・ヤオの水による浄化にかかわる経典の経文はほぼ一致を見せ、また儀礼の実践でも祓い清めにかかわる身体的な表現方法においても斉一性を見ることができ<sup>13)</sup>。漢字経典を継承し続け、それに基づき儀礼の実践を続けてきたことに起因するといえるが、これは数百年かけ漢字文化圏を越え、分散移住をしている状況から見ると、驚くべきことといえる。

## 2 道教・法教系儀礼における水との比較から考える

今回は、中国の道教・法教系の儀礼内容と使用経典が対応した形で報告されている新文豊出版から刊行された『中国伝統科儀本彙編』及び『道教儀式叢書』に収められた道教及び法教の事例を資料とし、水に関する儀礼のミエン・ヤオとの比較分析を試みる。

比較にあたっては、儀礼で使用される経典の経文のほか、口誦、手訣、罡歩、諱字、碗と宝剣の使用、呷水（噴水・嚥水）等祓い清めの所作といったパフォーマンスについても目配りを行う。

中国・ベトナム・タイのミエン・ヤオの浄化儀礼に関する経文の比較の際にミエン・ヤオの経文に共通してみられた以下の点を踏まえつつ、道教・法教系の経文を分析する。

- 一、青龍、赤龍、白龍、黒龍・黄龍の記述、五行、十干、方角、色との結び付きについて
- 二、「是水不是非凡水」の文言の修辭的使用と、

水来歴の形容について

三、太上老君との結び付きについて

四、功德との結び付きについて

五、穢れとの結び付きについて

六、洞中呪との結び付きについて

七、浄化の動作に関連する文言について

八、その他

## 2-1 江西省高安県浄明道との比較

中国伝統科儀本彙編(7)『江西省高安県浄明道科儀本彙編』(毛禮鎡著 2006年)を資料とする。複数の科儀が挙げられているが、どの科儀においても、浄壇解穢や浄壇と称される儀礼項目がある。パフォーマンスにおいては、口誦、手訣、罡歩、諱字、水碗を宝剣の使用、嚥水といった祓い清めの所作を行う。左手で香爐訣(中指、薬指、親指をつける)を結び、その上に水碗を載せ右手で柏樹枝をもち水を付ける(p.505)。

経文について一に関して、「請龍呪」(p.122)には、

東方青帝青海青龍王，莫在東海巖下藏，聞得弟子来相請，乘風破浪赴壇場，下来作变東方甲乙地，孕婦家内海中藏，日湧洪波高萬丈，邪鬼何處不敢當…南方赤帝海赤龍王，莫在南海巖下藏…，下来作变南方丙丁地……西方白帝白海白龍王，莫在西海巖下藏…下来作变西方庚辛地……北方黒帝黒海黒龍王，莫在北海巖下藏…下来作变北方壬癸地……中央黄帝黄海黄龍王，莫在黄海巖下藏…下来作变中央戊己地……

とある。

同じ経文(p.1018)に続けて、

更揺船過東海，望見東海水茫茫，謹請東方木德星君，統領魔明使者，点発東方兵馬，屯營下寨，刀要出鞘，弩要発芽，寸々斬首，歩々殺邪，天罡一將，寸罡一兵，豎青旗，執青旛，手執鳴鑼打更鼓，肚里穿青銅錢，銅城鉄壁断根源，鎮守東方第一營。二更揺船過南海，望見南海水茫茫：謹請南方火德星君……三更揺船過西海，望見西海水茫茫，謹請西方金德星君……四更揺船過北海：望見北海水茫茫，謹

請北方水德星君……五更揺船過中海，望見中海水茫茫，謹請中央土德星君……

とある。

つまり、青龍、赤龍、白龍、黒龍、黄龍と、十干、五方、五色との結び付き、五海・五星君に五行五方との結び付きが確認できた。

二に関して、「是水不是非凡水」の文言はなかったが、「勅水呪」(p.404)において、「吾之水」から始まり次のように続く。

吾之水，龍渦渥日，鳳沼浮空，清波湛，而晚監同盟，素練如同秋天一色，湛湛故能潔濁，涓涓何以納汚，川竭魚枯，曾作甘泉之妙用，旱乾拔弱，能為法水之大施，今將神呪作加持，便是太上三光水，吾奉太上劍水，相刑律令勅。とあり、水の来歴については大きく異なる。

三に関して、太上老君との繋がりについては「勅水呪」にあるように、太上三光水とある。その他水碗の水で浄化するとき唱える経文に太上神水とある(p.505)。ミエン・ヤオの例では太上老君功德水であるが、太上老君を冠した浄水としている点は同じといえる。

四に関して、功德水ではないが、不可思議功德の文言はある(p.1491)。

五に関して、穢れは浄穢や解穢という穢気分散、破穢という文言で頻出するが(pp.1347, 1513, 1517, 1542, 1585, 1591等)、種々なものに穢れがあるとする文言は見られない。

六に関して、洞中呪と関係が見られるのは「浄穢神呪」(p.120)に、

天地自然，穢気分散，洞中虚玄，晃朗太玄，八方威神，使我自然，靈宝符命，普告九天，乾羅怛那，洞炁太玄，斬妖縛邪，殺鬼萬千，中山神呪，元始玉文，持誦一遍，卻鬼延年，按行五嶽，八海知聞，魔王東省，侍衛我軒，兇穢消散，道炁長存

とあり、ミエン・ヤオの洞中呪と同じ文言とはいえないが、浄化の呪文を見いだせる。

七に関して、浄化の動作に関連する文言では、ミエン・ヤオ中国本の43行目～47行目にある「此水過香一巷天師勅变…」に通じる文言として「一洒天清，二洒地靈，三洒人長生，四洒鬼威跡，五



洒法壇内外，即令清淨」(pp.227, 283, 406, 1086, 1173)とあり，水での浄化が同様の文言に現されている。

## 2-2 福建省龍巖市閩山教廣濟壇との比較

中国伝統科儀本彙編(1)『福建省龍巖市東肖鎮閩山教廣濟壇科儀本彙編』(葉明生著 1996 年)を資料とする。

儀礼項目は，清淨と称される。

パフォーマンスではほぼ一致する。水碗は法碗と称され錫製である。

経文について一，二，三，七に関連しては，

此水不是非凡之水，原是崑崙大山，取来神水  
仙人玉女街前後凡人去取三年不回 趙侯童子  
寅時去卯時回取在長江名為江河之水 取在厨  
房名為飲食之水 取在池中 名為養魚之水取  
在弟子盂中，化為五龍神水，一二噴為風雨  
三四噴諸神伏地，惡殺滅亡 下来収斬，天地  
煞年月煞 日時煞一切凶神惡煞 尽皆急走  
吾奉太上老君勅 (p.325)

とあり，「水不是非凡之水」の表現が見られ，水の来歴について，仙人玉女とのかかわり，山，江，養魚の水という表現が内容的に一致する。ただ五龍神水とあるが，五行とのかかわりで，説明を施してはいない。また太上老君を奉ずるとあるが，太上老君水とはしていない。浄化については噴水の動作にともない祓い清めが説明されておりこの点はミエン・ヤオに一致する。

六の洞中呪に関連しては，経文では「浄天地解穢」や「洒水真言」の文言に，

天地自然 穢氣分散 洞中玄虚 晃朗太元  
八方威神 使我自然 靈宝符命 普告九天  
乾羅答那 洞罡太玄 斬妖縛邪 殺鬼万千  
中山神呪 元始玉文 持誦一遍 却鬼延年  
按行五嶽 八海知聞 鬼王束首 侍衛我軒  
凶穢消蕩 道炁長存 急急如律令 (pp.27, 136, 145)

とあり，浄明道の経文とほぼ一致する。除災に威力のあると考えられた呪文を見いだせる。

## 2-3 福建省寿寧県閩山梨園との比較

中国伝統科儀本彙編(11)『福建省寿寧県閩山梨園教科儀本彙編』(葉明生著 2007 年)を資料とする。

儀礼項目は，洒淨とされ，パフォーマンスはほぼ一致する。

経文について一，二，三，四に関して，

此水不是非凡水，東／南／西／北／五／方取  
来青／赤／白／黒／黄龍神水 天中取来天河  
神水，地中取来地藏神水 海中取来波浪神水  
溪中取来長流神水 山中取来甘露神水 田  
中取来種作神水 灶中取来灶公母神水 井中  
取来常飲神水…諸般垢穢惡煞撞吾法水粉煇化  
微塵…五龍神水 九龍吐水 八功德水…清淨  
法水…吾奉太上老君所勅急急如律令 (pp.708-709)

とある。

青龍，赤龍，白龍，黒龍，黄龍が，東，南，西，北，五方と結び付けられている。水の来歴については，天，地，海，溪，山，田等が挙げられミエン・ヤオにも通じる。八功德水と見えるが，さらに，

八功德水洒十方敢借盂中八德水…結應當繼呪  
法水 南無明為法佛僧水摩訶演水八功德 水  
九龍吐水觀音菩薩楊柳枝頭甘露神水 自吾呪  
水謹當玄機特誦多羅呢日庵… (p.479)

とあり，仏法僧や観音や多(陀)羅呢(尼)と結び付けられており，ミエン・ヤオのように太上老君との繋がりとは読めず，若干異なる。

## 2-4 広西省柳州市師公文武壇との比較

中国伝統科儀本彙編(4)『広西省柳州市師公文武壇科儀本彙編』(龐紹元著 2000 年)を資料とする。

儀礼項目は浄壇と称される。

パフォーマンスではほぼ一致する。

経文については一，五に関して，

拜請東方木德龍神道宝 南方火德龍神道宝  
西方金德龍神道宝 北方水德龍神道宝 中央  
土德龍神道宝…太上老君急急如律令 (pp.141-142)

とあり「塘清淨水便洒道場足清涼」には，

一碗清浄之水…五龍法水便洒献穢速開……天穢解送天上去，地穢解送地埋埋藏，人間現穢各散五方…明威浄浄… (p.328)

とあり、ミエン・ヤオ同様五行五方と結び付いた龍が見えるが、天穢，地穢等としている点は異なる。

## 2-5 浙江省永康県道壇との比較

中国伝統科儀本彙編(12)『浙江省永康県道壇青詞科儀本彙編』(徐宏圖著 2007 年)を資料とする。

儀礼項目は，勅水浄壇，禁壇と称される。パフォーマンスはほぼ一致する。水碗と宝剣をもち祭壇を浄化するが，罡歩については五龍を集めるために行い宝剣で九鳳を鳴かせると解説が付されている (p.62)。

経文について一に関しては，「五龍之神水」「五龍吐出浄天地」(p.279)の表現や

謹請東方青帝龍君，南方赤帝赤龍君，西方白帝白龍君，北方黒帝黒龍君，中央黄帝黄龍君各降真炁入吾水中 (p.280)

東方青帝青龍君吐青雲於甲乙之上 南方赤帝赤龍君吐赤雲於丙丁之上 西方白帝白龍君吐白雲於庚辛之上 北方黒帝黒龍君吐黒雲於壬癸之上 中央黄帝黄龍君吐黄雲於戊己之上 各降真炁入臣水中急急如律令 (p.471)

とあり，五方，五色，十干に結び付けられた五龍が確認できる。

二に関しては，

「勅此水 不是非凡水 勅来●●●海江河水 井泉之水，塘池之水波●●湧之水 浮沉漂流之水 法水之水 浄水之水 天一生水…」(p.273)とあり，不是非凡之水の表現と水の来歴が見られる。

三に関しては，浄化に際して「太上之所勅按」(p.471)という文言が見られ太上老君との結び付きは見られる。

六に関しては，「天地呪」に「天地浄自然 穢氣分散 洞中玄虚 晃朗太元 八方威神…」(pp.281, 327, 500, 569, 891)とあり，他の地域の儀礼で用いられている「浄穢神呪」等と称される浄化の文言と同様の文言が見いだせる。

七に関しては，「一水麗天天無気穢 二水洒地地絶妖塵 三水洒此間法筵文書内外 悉令厳潔神水呪来…」(p.281)とあり，浄化の動作に関連して同様の文言が見られる。

八その他に関しては，「火焚燎道衆虔誠依儀行道 竈君前穢 氣消散道炁長存…」と経文に見えることから儀礼中にかまどの前で浄化が行われると考えられるが，これはミエン・ヤオでもかまどでの浄化が行われることと一致する。

## 2-6 江西省雲宝教との比較

中国伝統科儀本彙編(14)『雲宝教太平清醮科儀本彙編』(毛禮錫著 2008 年)を資料とする。

儀礼項目は，解穢，浄壇と称される。パフォーマンスはほぼ一致する。水碗に描かれる諱字は「靈霽霽」(p.210)，「𪛗」(p.289)等が見える。

経文について一に関連しては，

謹召東方青龍帝 忽倏交通 吐青雲於甲乙之上 降木德真炁 入吾之中 謹召南方赤龍帝 振怒飛驅 吐赤雲於丙丁之上 降火德正炁 入吾水中 謹召西方白龍帝 素執感通 吐白雲於庚辛之上 降金德正炁 入吾水中 謹召北方黒龍帝 黒色臣容 吐黒雲於壬癸之上 降水德正炁 入吾水中 謹召中央黄龍帝 吐黄雲於戊己之上 降土德正炁 入吾水中 (pp.67, 520)

五龍吐出浄天地 (p.76)

とあり，五行，十干，五方，五色との結び付きを見ることができる。さらに「請五方龍神君」(p.142)に

東方青宅龍神君 甲乙寅卯辰位 土府神君 功曹大衝 青龍神君 天罡太乙神君 天德月德神君 金鞍驛馬神君 長生福德神君 東方守衛一切龍神 伏望 聖慈降臨壇所 臣謹謹焚香 再拜奏請

南方赤帝宅龍神君 丙丁巳午未上 土府神君 太乙勝光朱雀神君……

西方白帝宅龍神君 庚辛申酉戌上 土府神君 傳奏從魁白虎神君……

北方黒帝宅龍神君 壬癸亥子丑上 土府神君 登明天関 地軸玄武神君……

中央黄帝宅龍神 戊己三秦位上 土府神君  
天罡勾陳騰蛇神君……

とあり、五行、十干、方角、色のほか、青龍、朱雀、白虎、玄武、騰蛇と結び付けられている。この点はミエン・ヤオの経文と異なる。

二に関して、「吾水不是非凡水 五星五龍真炁水」(pp.67, 193)、「此水不是非凡水 五方五龍真炁水 天上差来天仙水 地下差来地仙水 五方差来五龍水…」(p.619)とあり、不是非凡水の表現と水の来歴を見ることができる。

四に関して、「三清懺文」に

水灑天心爲雨露 水埽地下浙江河 水臨蕩穢  
體妖氛 水灑醮壇上清浄不可思議功德… 所有太上淨天淨地 解穢靈章 今當侍誦(p.324)  
とあり、不可思議功德と太上を同じ呪文の中に見いだすことができる。

五に関して、

謹召解穢官 南方破穢 九鳳破穢大將 破穢  
大真人 華池夫人…解穢使者…各降正氣 入  
吾水中…助吾解穢 灌灑醮壇 悉令清静……  
(p.67)

とあり、穢れを浄化する神名としてみることができる。

六に関連して、「行壇呪」に「洞中虚玄生一炁  
晃朗太玄 滅萬精 八方威神 分左右…」  
(p.68)、「天地解穢呪」「淨天地解穢呪」に「天地  
自然穢氣散洞中玄虚…」(pp.77, 97, 156, 210,  
308, 324, 521, 691)とあり、他の地域の儀礼で  
用いられている浄化の文言と同様の文言が見いだ  
せる。

七に関して、「一嘸東方木催者 二嘸南方火焰  
滅」(p.67)と口に水を含み吹き出す動作に関連  
する文言が見える。

## 2-7 浙江省磐安県樹徳堂道壇との比較

中国伝統科儀本彙編(2)『浙江省磐安県樹徳堂  
道壇科儀本彙編』(徐宏圖著 1999 年)を資料とす  
る。

儀礼項目は浄壇と禁壇と称される。パフォーマンスはほぼ一致する。罡歩については五龍を集めるために行い、宝剑で九鳳を鳴かせると解説が付

されている(p.317)。

経文については一に関して、

東方青帝青龍君吐青雲於甲乙之上 南方赤帝  
赤龍君吐赤雲於丙丁之上 西方白帝白龍君吐  
白雲於庚辛之上 北方黒帝黒龍君吐黒雲於壬  
癸之上 降真氣入臣入中急急如律令(p.320)  
とあり中央黄龍が見えない。「東方青帝蒼龍形」  
(p.323)とはあるが、南西北中には龍が結び付い  
ていない。

二に関して、「水非凡水呪之則清…呪水行壇」  
(p.320)とされ、表現が異なる。

三に関して、太上老君との繋がりについては「沐  
浴浄水呪」(p.111)に太上神水とあり、太上老君  
を冠した浄水としている。

七に関して、「一嘸如霜二嘸如雪三嘸四嘸萬穢  
消滅…千邪萬穢隨水消滅…」(p.320)とあり動作  
に関連する文言が見られる。

## 2-8 浙江省上虞県靈宝齋壇との比較

中国伝統科儀本彙編(8)『浙江省上虞県靈宝齋  
壇科儀本彙編』(徐宏圖等著 2006 年)を資料とす  
る。

儀礼項目は浄壇と称される。パフォーマンスは  
ほぼ一致すると考えられる。

経文については一に関して、五龍之真氣さらに  
五龍嘸水によって穢れを除くという文言が見える  
(pp.254, 379)ものの、はなはだ断片的である。

六に関し、「淨天地神呪」に「天地自然穢氣分  
散洞中玄虚晃明太元…」(p.535)とあり浄化の呪  
文は他に共通する。

## 2-9 湖南省会同県梅山虎匠との比較

中国伝統科儀本彙編(5)『湖南省会同県金龍郷  
岩溪冲 梅山虎匠科儀本彙編』(李懷蓀著 2001 年)  
を資料とする。

儀礼項目は浄壇と称される。パフォーマンスは  
ほぼ一致する。

経文については一に関して、五龍と浄化に用い  
る神水が結び付けられた表現は見いだせない。し  
かし、盤古水と称する神水がある(pp.53, 195)。

二に関して、「此水不是非凡神水 河中飛来落

魚神水 田中起来●禾神水 江井取来●偽神水大金欣開神水 小金●●神水…」(p.374)と「不是非凡神水」の表現及び水の来歴が見える。

六に関しては、「浄穢神呪」(p.261)「解穢呪」(p.67)に「天地自然 穢氣消散 洞中玄虚 晃朗太元…」の浄化の呪文をここにもまた見いだせる。

## 2-10 四川省江津市神霄派壇との比較

中国伝統科儀本彙編(3)『四川省江津市李市鎮神霄派壇口科儀本彙編』(段明著 1999 年)を資料とする。

儀礼項目は禁壇と称される。パフォーマンスはほぼ一致する。

経文については、一に関しては「請水」に

仰請東方青帝青龍王 青帝龍王降道場 青龍口内常吐水 仰請東方解穢史 東方解穢已周完 請師挙歩上南方 仰請南方赤帝赤龍王 赤帝龍王降道場 赤龍口内吐水 常常吐水灑道場 仰請南方解穢史 南方解穢大騎史 南方解穢已周完 請師挙歩上西方 仰請西方白帝白龍王 白帝龍王降道場 白龍口内常吐水……仰請北方黑帝黑龍王 黑帝黑龍王降道場 黑龍口内常吐水……仰請中央黄帝黄龍王 黄帝黄龍王降道場 黄龍口内常吐水……五龍吐水灑壇場 (p.187)

とあり、方角と色と結び付いた龍が見られる。ただし五行と結び付けられているのは「東方甲乙将号曰青龍君……南方丙丁将号曰朱雀君……西方庚辛将号曰白虎君……北方壬癸将号曰玄武君」(p.548)とあり五龍ではない。

二に関しては「勅此水非凡水」(p.549)という表現が見え、水の来歴については見えない。

四に関して、「…神水解穢常清常浄天尊…不可思議功德」(p.315)と見える。

七に関して、「…以清蕩揚 是故一嚙天開 二嚙地裂 三嚙人長寿 四嚙鬼清滅…」(p.549)と水を口から吐き出し浄化する動作に関連する文言が見える。

## 2-11 湖南省梅山楊源張壇との比較

道教儀式叢書2『師道合一：湘中梅山楊源張壇的科儀与伝承』(呂永昇等著 2015 年)を資料とする。

儀礼項目は、清浄と称される。パフォーマンスはほぼ一致が見られる。

経文については、一、二、五、六、七に関して、文言が儀礼項目「点目開光」に見えるが、

…迎真降聖廣佈法以真香蕩穢除氛如五龍之法水関…唵天地解穢神呪口唵呪浄水碗内書諱靈…天地自然穢氣消散洞中虚玄朗太元八方威神…常存東／南方取来青／赤帝青／赤龍之水青／赤衣童子把筆向吾水中灌洒壇場速臨清浄西／北方取来白／黑帝白／黑龍之水白／黑衣童子把筆向吾水中灌洒壇場速臨清浄中央取来黄帝黄龍之水黄水童子把筆向吾水中灌洒壇場速臨清浄山中取来毛葉之水井中取来泉源之水河中取来川流之水塘中取来養魚之水田中取来養禾之水此水不是非凡之水朝在青揚洲暮在洛陽 県朝流山川暮流不歇朝／暮取朝／暮回朝／暮取一盞／盆度在弟子手中灌洒壇場速臨清浄天／地／中堂乏上厭有穢法水解穢一／二洒天寛／地濶三洒信士長生四洒鬼煞消滅… (pp.1363, 1364)

とある。方角と色と結びついた五龍が見えるほか、水の来歴はかなりミエン・ヤオと内容が共通している。浄化の呪文のほか穢れの存在場所が明記され、水を撒く浄化の動作と関連する文言も見いだせる。ミエン・ヤオの浄壇の経文とは順番は異なるものの大筋の一致を見ることができる。その他の経文にも浄化の呪文は見え、「天地神呪」(p.1196)、「浄天地神呪」(p.603)、「浄天地自然神呪」(p.810)、「浄天地解穢神呪」(p.846)と題されるが、内容は一致している。

四に関して、穢れの存在については天、地、花壇にもあるとされ (pp.1196, 1251)、水で浄化されるとあり、最後に「浄水一洒肅臨清浄不可思議功德」とあり功德の表現が見える。

## 2-12 江西省銅鼓県棋坪鎮頭応雷壇との比較

道教儀式叢書1『江西省銅鼓県棋坪鎮頭応雷壇



道教科儀』（藍松炎等著 2014 年）を資料とする。

儀礼項目は清浄と称される。パフォーマンスはほぼ一致が見られる。水碗に「洞中虚玄」（p.80）を表現する文字を描くとされる。

経文については、一、二、六に関して、「五龍之法水」（p.79）が見え、「清浄之水非凡水」（p.79）とある。

## 2-13 福建省永福閩山教との比較

道教儀式叢書 3『閩西南永福閩山教伝度儀式研究』（葉明生著 2017 年）を資料とする。

儀礼項目は清浄灑浄と称される。パフォーマンスはほぼ一致する。

経文については一に関して、「五龍之真氣」（p.752）の表現が見られる。

六に関して、「洞中玄虚晃朗太無八方威靈…」（p.981）の呪文が見られる。

## 3 ミエン・ヤオと 道教・法教儀礼の比較まとめ

まず、罡歩、手訣、諱字、噴水、水碗及び宝剑の使用、浄化の所作等儀礼で行われるパフォーマンスはミエン・ヤオと道教法教の儀礼でほぼ一致する。

次に、経文において五龍の表現に、五行（木火土金水）、五方、五色、十干（甲乙丙丁戊己庚辛壬癸）との組み合わせが、完全に見られるのはミエン・ヤオの特徴といえると考ええる。ただ、江西省浄明道及び靈法教には、この組み合わせに近い文言を見いだせた。

さらに、ミエン・ヤオに見られる修辭的表現の「不是非凡之水」は、道教・法教系儀礼でも見られる。また水の来歴についても文言の一致が見られる例があり、特に湖南省梅山楊源張壇には内容の一致が見える。

そして、太上老君功德水というように太上老君との結び付きはミエン・ヤオに顕著である。この聖水が太上老君功德水と考えられている点は、ミエン・ヤオの独自性を表しているのではと考えられる。太上老君は、法の師と考えられており<sup>14)</sup>、

浄化を行うという法術の重要な行為の道具となる水とも結び付けられているといえる。ただし道教・法教系の浄化儀礼の文言に「不可思議功德」が多く見られ、浄明道と樹徳堂に太上神水の表現が見える。

また、道教・法教系の経文には、ミエン・ヤオのように穢れが東西南北と結び付けられている例を見いだせなかった。さらに五龍清水を注いで光明をもたらすという表現はミエン・ヤオ特有といえる。この光明がもたらされるとされる考えは、ミエン・ヤオが光の信仰と称されるように儀礼項目に光に関連する項目（上光、掛灯等）多くあることから、ミエン・ヤオならではの価値をもとに案出されたと推測できる。

さらに、ミエン・ヤオが必ず唱える浄化の呪文「洞中呪」だが、道教・法教系経文にも必ず「洞中玄虚」や「洞中虚玄」の文言が取り入れられた浄化の呪文があり、除災にもっとも威力のある文言と考えられている点で共通する。

また、道教・法教系経文にも水を撒いたり水を口から吹き出したりする浄化の所作と連動する文言が見られる。

ミエン・ヤオの儀礼における水の役割について道教・法教の事例と比較を試みたが、まったく異なる世界観のもとに水の儀礼ができあがっているとはいえないものの、ミエン・ヤオが全面的に影響を受けてできあがったといえる事例も見いだすことはできなかった。ミエン・ヤオの儀礼は複数の道教・法教等の儀礼を参考にしつつ独自の儀礼世界を作りあげていると考えられる。

### 注

- 1) 中国南嶺山脈から、ヒマラヤからのびる東南アジア大陸部北部の隆起山脈にかけて分布し、中国には約 270 万人（2010 年国勢調査）、ベトナムには約 75 万人（2009 年国勢調査）、タイには約 4.5 万人（2003 年チェンマイ山岳民族博物館資料）、ラオスには推定約 2 万人（1995 年）と報告されている。
- 2) 吉野晃「中国からタイへー焼畑耕作民ミエン・ヤオ族の移住」塚田誠之編『流動する民族—中国南部の移住とエスニシティ—』平凡社 pp.333-353 2001 年、吉野晃「タイ北部ミエン族の出稼ぎ—二つの村の比較から—」塚田誠之編『民族の移動と文化の動態—中国周縁地域の歴史と現在—』風響社 pp.159-192 2003 年、吉野晃「ユー

- ミエン（ヤオ）の国境を越えた分布と社会文化的変差」塚田誠之編『中国国境地域の移動と交流—近現代中国の南と北—』有志舎 pp.237-258 2010 年、吉野晃「タイにおけるユーミエンの家族構成の社会史—合同家族から核家族へ—」クリスチャン・ダニエルズ編著『東南アジア大陸部 山地民の歴史と文化』言叢社 pp.219-246 2014 年
- 3) 中国湖南省藍山県のミエン・ヤオ族の「点男女過山根」と題される伝承（廣田律子「儀礼における歌謡—「大歌」の読誦詠唱される還家願儀礼を事例として—」『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版 pp.42-44 2016 年）。
- 4) 廣田律子「儀礼における歌謡—「大歌」の読誦詠唱される還家願儀礼を事例として—」『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版 pp.1-53 2016 年で詳しく述べた。
- 5) 吉野晃「祖先と共に—タイ北部、ユーミエンのピャオ集団の核家族化過程に見られる「家」の構成原理—」信田敏宏・小池誠編『生をつなぐ家』風響社 pp.153-175 2013 年
- 6) 4 カ所に酒杯、線香立て等が配置され、開壇願・元盆願・招兵願・盤王願の各儀礼項目に対応するとされる。
- 7) 2006 年馮家で実施された還家願儀礼では馬元帥の神画を加え、18 種であり、掛ける順番にも違いが見える（廣田律子『中国民間祭祀芸能の研究』風響社 p.320 2011 年）。祭司の役割に従い、持参する軸の内容も異なる。
- 8) 儀礼項目「掛三盞明灯」で使用されたテキストの文面を以下に記し、訳す。  
ただの水を変じて、受礼に使用する道具類の穢れを落とし清める聖水にするための呪文である。  
趙金付氏所有のテキストで、ジャンルは伝度書に属し、タイトルは付されていない、全 38 頁からなるテキスト（ヤオ族文化研究所文献番号 Z-13）の冒頭部分である。
- 1 伝燈用 勅変水碗
  - 2 一変此水化為○酒○埠之水 二変此水化為觀音
  - 3 楊柳之水 三変此水化為真武之水／四変此水
  - 4 化為五雷殿上之水 五変此水化為八大金
  - 5 剛之水 六変此水化為三望壇之水／○蓮化如雲

- 6 露之水／邪鬼○白滅○白 吾奉太上老君急急
- 7 如令勅
- 訳は、
- 1 にこの水を九歩の水に変じる。2 にこの水を觀音楊柳の水に変じる。3 にこの水を真武（北方水神玄天上帝）の水に変じる。4 にこの水を五雷殿上の水に変ずる。5 にこの水を八大金剛の水に変じる。6 にこの水を三望壇の水に変じる。速く水を雲露の水のごとく変じ、邪鬼を自滅させる。吾太上老君を奉じて急ぎ令のごとく勅す、となる。
- 9) 同じく文献番号 Z-13 のテキスト 5 頁目、  
「打燈（檟）甲用」  
一打燈頭立獅子 二打燈尾立麒麟  
麒麟獅子两边坐 叫你傷鬼莫傷行  
訳は、  
一つ椅子を敲けば獅子が立つ 二つ椅子を敲けば麒麟が立つ  
麒麟と獅子が両脇にいれば 傷鬼も悪さはできない  
（廣田律子『中国民間祭祀芸能の研究』風響社 pp.580-581, 342 2011 年）
- 10) 神奈川大学歴史調査報告第 12 集『中国湖南省藍山県ヤオ族儀礼文献に関する報告』I 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 p.33 2011 年
- 11) 神奈川大学歴史調査報告第 12 集『中国湖南省藍山県ヤオ族儀礼文献に関する報告』I 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 pp.26-29 2011 年
- 12) 西岡弘『中国古代の葬礼と文学』汲古書院 2002 年
- 13) 廣田律子「ミエン・ヤオ族の儀礼における水の機能—中国・ベトナム・タイ広域比較分析の取り組み—」後藤晃・秋山憲治編著 神奈川大学アジア研究センター叢書 4『アジア社会と水—アジアが抱える現代の水問題—』文眞堂 pp.211-248 2018 年で中国とベトナム・タイの浄化儀礼及び使用テキストの経文比較を行った。
- 14) 廣田律子「湖南省藍山県過山系ヤオ族の祭祀儀礼と盤王伝承」『東方宗教』第 121 号 日本道教学会 p.17 2013 年

最後に山田直巳先生ご退任記念号に執筆させていただいたことは私にとって大変に光栄なことであり心より御礼申し上げます。